

# 学校ボランティア通信

第2号

発行日2006年 7月11日

ATとして子どもに接することの困難さ  
2006年 経済学部卒業 小野啓之

## 内容

- ・ ATとして子どもに接することの困難さ 小野啓之
- ・ 5月のボランティア体験談 今田久貴
- ・ 小学校ボランティアと学童のアルバイトでの体験 高橋秀典

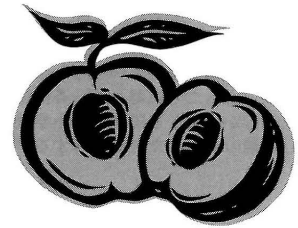
AT(アシスタントティーチャー)として寺尾小学校へ行くようになって3ヶ月が経つ。私は主に5年生の3つの学級を担当している。その中で子どもたちとたくさん接することができたり、先生方の授業の方法、学級経営の仕方を日々学習することができ、とても楽しく実りのある活動をさせていただいている。しかし、最近では子どもたちとの接し方について悩むこともある。

最初私は、とにかくたくさんの子どもたちと接するために、子どもたちからかわれたり、戦いを挑まれたりしても笑顔で応えていた。どんな活動であっても、子どもたちと接することができればいいと考えていたからだと思う。そのからかいとはこのようなものである。

私が学校に行き始めたら、一人の子どもが真っ先に私の顔をみてこう言ったのである。「ハゲタカ～!!!」なんと私はこの言葉を笑って聞いてしまったのである。「あはは～ふざけんなんて!!・・・先生飛べね～から!」

この対応が、その後の学校での生活にどれだけ支障を与えるのかなんてその時の私は考えもしなかった。それからこの「ハゲタカ」という言葉は5年生の学級に広まってしまったのである。私を見るとすぐに子どもたちはすぐにこの言葉を口にするようになった。

もちろん子どもたちの中には、そんなこと言うてはいけないとわかっている子もいたので、「どうして先生は怒らないのかな?」と戸惑わせてしまったかもしれない。子どもたちのからかいは、ある程度のところで区切りをつけないと、どこまでもエスカレートしてしまう。結局この問題は、担任の先生から子どもたちに指導をしてもらうことにより今のところおさまっている。



この問題が大きくなる前に先生方にも相談をした。先生によって言われることは様々であったが、始めの対応が大事であることや、関係をきちんと作ってから解決していけばいいなどたくさんアドバイスをいただいた。そんなことがあってからも、子どものことをきちんと叱る事が出来ているか?と聞かれたら、そう簡単にはうなずけない。自分で叱らねばとわかっていても出来ないときもあり、ただ怒鳴るだけで終わってしまうこともある。なかなか現実化は難しい。

このように、もしかしたら自分が教員になってから直面していたかもしれない問題に、現時点で向き合っていることはとても貴重な体験であると思っている。これからも子どもたちとの活動を通じて子どもたちとの良い関係とはどんな関係なのかを模索していきたいと思っている。子どもたちのたくさん笑顔に出会うために。旅は続く・・・。

## 5月のボランティア体験談

2006年 経済学部卒業 今田久貴

現在、私は浅間台小学校で学校ボランティアを行っている。ボランティアへ行こうと思ったきっかけは、教員を目指すにあたり、少しでも多くの時間を実際の学校現場で過ごすことで、今後に繋がるものを得ることが出来ると思ったからだ。

実際、小学校でボランティアをしてみると想像以上に得るものは多い。特に生徒指導という点でとても勉強になっている。

私は中学年ブロックの三年生の教室に入って授業に参加しているが、授業中や給食の時間などに、児童が教室内を歩き回ったり、配膳台の上に乗るなどの場面に出くわす。私は当然注意するのだが、聞いてくれないことも多くある。しかし同じ場面で、担任の先生が注意すると、その児童はちゃんと注意を受け止め、席に着くなり、配膳台から降りるなりする。最初は何故だろうと疑問に思うことが多かった。また毎日顔を合わせている先生と週1回しか顔を合わせない私との違いとも思うこともあった。しかし、毎日先生と児童の会話やその時の反応などを、時系列にして事細かく書いてみると先生と私の違いを理解することが出来た。

その一つが、基準のある対応である。私はその時々によって対応の仕方が同じではなかった。教室内を歩き回っていたときの注意にしても、きつく叱ったり、一言注意するだけなどバラバラであった。しかし、先生は生徒のその時の状況によってすべてが一緒というわけではないが、一つの基準に沿って注意されていると感じた。また、注意するときにも、何故いけないのか理由を言って注意されていた。この違いの積み重ねから、児童の反応が違ってきたのだと思う。

そしてこのことを踏まえて、私が現在行っていることは、自分の言葉や行動を事細かく記録するというのである。先生との違いには気付くことは出来たが、放課後、ノートで自分の行動、言葉を記録し、確認してみると、まだ適切な言葉、行動がとれているとは言えない。今後自分の言葉や行動の記録をし続け、自分の成長につなげていこうと思う。

またこれと共に、今テーマとしていることがアフターフォローの仕方である。注意した後をどうするか、ボランティアを始めたばかりの頃、注意ばかりしていたために児童に避けられてしまった経験がある。その時から、叱った後のアフターフォローをどうするかをいつも考えていた。叱った後の対応をどうするかで、児童と私の関係は大きく変わってくる。叱ったから笑顔でというような考えで接したために、「何にやにやしてるの」といった言葉が返ってきたこともある。その場しのぎの対応では、児童は見破ってしまう。先生方の対応をみながら自分の対応の仕方を考え、より良いものにしていきたいと思う。

最後に、今後の経験になると思いき始めた小学校ボランティアではあるが、やってみると、とても面白い。「来年は浅間台の先生になってね」と言われたこともあり、中学校・高校の教員を目指しているが、「小学校に務めた」ということも何度もある。教員になるには、採用試験というとても大きな壁が立ちはかっているが、小学校での体験と児童が言ってくれた言葉を胸に、頑張ろうとここに誓う。すべては児童・生徒のために！



## 小学校ボランティアと学童のアルバイトでの体験

自治行政学科4年 高橋秀典

こんにちは！自治行政学科4年の高橋です。私は今年のGW明けから、週一回浅間台小学校で高学年と個別支援学級を担当するAT（アシスタントティーチャー）のボランティアと、週に三回反町の青木たいようクラブで学童保育の指導員のバイトをしています。将来は小学校の先生になりたいので、今年は色々な子どもと関わる経験をしたかったのと取り組んでいます。今回は私がどんな事をしているか、どんな出来事から何を思ったかをいくつか抜粋してお話しようと思います。

### ATでの体験

ATでは、高学年にいる時は授業中に子どもが分からない所を教えたり、自習監督をしたり、丸付けなどの事務作業をしたり、一緒に給食を食べたりしています。その中で先生がどんな声かけや指導をして、子どもがどんな反応をしているか見たりしています。一つ一つ発見や驚きの連続です。

個別支援学級では通級の時の補助や、遊びを通して子どもを観察しています。言葉が通じないから、動作の一つ一つから色々な気持ちなどを考えています。大学で知的障害児とふれあうサークル（児童福祉ボランティアサークルSUNS）に入っているの、比較的スムーズに仲良くなれました。朝や休み時間は子ども達と全力で遊んでいます（笑）皆とても元気に遊んでくれます。凄く楽しいです。

私は、先生方がお互いの指導力を向上させる「授業研究会（授業研）」を見る事が出来ました。指導案を頂き、ある先生の授業を他の先生が見て、放課後に反省会をするものです。凄く勉強になりました。先生方の子どもに対する願いや思いが指導案や授業から強く伝わってきました。クラスではこんな問題があるとか、今子どもがこんな状態だからこんな風になって欲しいという気持ちなどの先生も凄く強くなって思いました。

反省会では、教員の願いに対して、発言や授業内容は適切かとか、先生のあの指導の後子どもがこんな風になっていたねとか、教材研究はどうか等色々な意見が出ました。あと先生方の連携も凄く大切なんだなって思いました。同じ学年の先生同士だったり、校長先生と他の先生だったり様々です。イジメなどの問題が生じた時、先生皆で問題を共有したりしました。

個別支援学級の研究授業を見られたのも貴重な体験でした。4人が在籍しているのですが、子ども一人ひとりの能力や目標に合わせて一つの授業が展開されて

いました。親御さんの願いや学校で出来る事との兼ね合いを上手くやりくりしているなと思いました。先生方の熱意を凄く感じた授業でした。

あと校外学習の引率もしました。皆と仲良くなりつつ、子どもはどういう視点で見ているのかなとか、先生はどうやって皆をまとめたり、行き先でやり取りをしているのか見ることが出来ました。

学校で過ごしていて教員の発言の影響力の大きさも感じました。私が色々な意図があって言っても、子どもには「先生に言われた」という絶対的な影響力があるようです。言いたい事を伝えるには、子どもとの信頼関係作りは大切だと思っています。

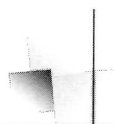
学校では子どもとかなり仲良くなれました。自分の特技の大道芸もあって、皆と楽しく過ごしています。ある男の子からは年賀状出すから住所を教えてよって言われて、嬉しいなと思いました。

### 学童保育での体験

学童保育のバイトでは主に子どもと遊ぶ事が仕事ですが、宿題を見たり休日に遠足に行くこともあります。小学校にいる時と違い、何かから解放されたように子どもは物凄く元気いっぱいです（汗）バイトを始めたばかりの頃は凄く疲れました。コマや花札や将棋、鬼ごっこ、障害物競争、サッカー、肩車…馬乗りになった時はホントに危険でした。私が四つんばいで馬になり、そこに子どもが4人立って乗るんです！前寄りの子は私の後頭部と首の所で飛び跳ねてました（汗）。最近では、「ひで次いつ来るの？」とか、「こっちで遊ぼう！」「あっちで遊ぼう」と皆から仲良くしてもらえて楽しくやっています。

子どもと関わりながら色々な事を学んだり感じたりしました。しょっちゅう喧嘩があり毎回色々考えます。大体皆が自己中なのが原因です。どうしても思い通りにいかない喧嘩ははじまってしまいます。そこで私は皆の「友達」として、「大人」として良くない事は良くないと言うにはどうしたらいいか考えました。

まずは仲良くなって信頼関係を築く事です。指導は口でするのではなく信頼関係の中で行うものです。例えば見ず知らずの人に叱られたら何だダメってなると思いますが、信頼してる先生や友達に言われたら、少しは耳を傾けて自分がした事を考えやすいと思います。しかし、なかなか指導には勇気がいります。せっかく仲良くなれたのに叱ったりするのは心が痛いです。初めて叱った時は凄く辛かったです。後で泣きました（笑）。でもガツッと叱った後、しっかりアフターケアをすれば大丈夫です。何で叱ったか落ち着いて話をすると子どもは分



かってくれます。そのままだと気まずくなり、子どもはキレられた位にしか思いません。今はその初めて叱った子とは仲良くやっています。「叱る」と「怒る」は違うと思います。前者は相手を思っている事で、後者は自分の感情をぶつけてるだけです。

また子どもの言葉遣いの悪さにビックリしました。特に「死ね」が頻繁に使われています。凄く破壊力のある言葉だから使うべきではないと思います。気に入らないとすぐ「死ね」と言ったり、殴ったりします。そういう行動はすぐに直るものではないので、時間をかけて一緒に考えていけたらいいなと思います。他にも、私に対して「指導員辞めれば」と言った子もいました。子どもが可愛いなんて思っただけじゃやってらんないだろうなって思いました(苦笑)。それだけ子どもと向き合うのは難しいと思いました。

こんな事もありました。私と遊ぶために友達に嘘をついてしまった女の子がいました。私は嘘は許せないから厳しく叱りました。しかし最初は「あっそ」みたいな感じで気まずい感じでしたが、次の日こっそり「昨日は嘘ついてごめんなさい」と私に謝りに来てくれました。凄く嬉しかったです。でも、すぐまた別のところで嘘をついていましたが…(泣)嘘をついたのには様々な原因があるので、時間をかけて見ていこうと思いました。

子どもは様々な事を抱えているんだなと思いました。やはり家庭の影響力は大きいです。家庭が安定していないと、学校や学童などの場で荒れてしまうようです。しかしそれは子どもに責任はないけど許される事ではありません。そういう行動をとっても友達は居なくなってしまうんだと言う事を伝えていきたいです。子どもが抱えるものの発散方法を正しい方へ導けたらいいなと思います。

子どもと関わる事で、自分自身が色々な事を考えられてとても楽しくて充実しています。子どもと関わるって何だろうとか、先生って何だろう、自分は子どもと関わる事で何を考えたり得たりしているんだろう…等沢山考える事があります。きっとこれらは将来教員になる時に役立つかもしれません。またそれだけでなく、子どもと関わるボランティアをしている自分自身の成長にも繋がると思います。これから夏に向けて沢山の子どもと関わって自分自身が成長出来たらいいなと思います。

## 神奈川大学 教職課程指導室

電話 0454815661

FAX 0454134154

Email: educ@kanagawa-u.ac.jp

